

さいたま市総合振興計画次期基本計画(区の将来像)に係る

第2回南区検討懇話会 会議録

日時	平成 25 年 3 月 19 日火曜日 14～16 時
場所	南区役所大会議室
参加者 ※敬称略	〔委員〕 計 15 名 小笠原孝子/車田清/佐藤章/首藤康夫/関根隆俊/瀧澤昭治/長澤貞男/中村賢司/野口幸子/萩原桂子/宮崎晴代/宮田勝/村松君江/守屋二郎/米沢倫江 〔事務局：さいたま市〕 計 9 名 〔日本経済研究所〕 1 名 永島千恵 〔傍聴者〕 なし
議題及び 公開又は 非公開の 別	1 開会 2 南区の将来像（素案）に関する説明 3 南区の将来像（素案）に関する意見交換 4 その他 5 閉会 <p style="text-align: right;">[公開]</p>
配付資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 席次 ・ 資料 1 第 1 回南区検討懇話会における主なご意見 ・ 資料 2 南区の将来像改定素案（たたき台）検討整理表
問合せ 先	南区役所区民生活部総務課 電話 048-844-7123

- 1 開会
- 2 南区の将来像（素案）に関する説明
- 3 南区の将来像（素案）に関する意見交換
- 4 その他
- 5 議事

●将来像「あなたが主役 住んでよかったまちづくり」に関して

関根委員：

南区は若い年代の住民が増えており、ベッドタウン的ではあるが、高齢化も進んでいる。区民の区への思い入れはあまりないのではないか。

素案の表現に関して、現行では「長く住みたいと願える」とあるが今回の素案では「長く住みたいと思える」に変更しているが、なぜか。

併せて、「ベッドタウン」という表現は「寝に帰るところだけ」というイメージだ。南区の特徴である「生活の利便性」や「若さ」などの表現を使ってはどうだろうか。

車田委員：

公共交通の利便性で言えば、南区は首都圏の玄関口と言える。武蔵浦和駅は通勤快速の停車駅であり、始発列車もある。武蔵浦和駅は乗降者数が 10 万人で乗り換え利用者が 15 万人、南浦和駅は乗降者数が 11 万人で、乗り換え利用者が 19 万人となっている。武蔵野線沿線の開発により南浦和駅の乗り換え利用者が増加している。

宮田委員：

区内には鉄道の駅が 3 つある。また、陸路においても東西南北の中心となっている。ほか、単に「ベッドタウン」というだけでなく、若者の流入により区民ニーズの多様化が進み、市民活動も活発になっている。

守屋委員：

交通に関する利点を強調してみてはどうか。

関根委員：

「ベッドタウン」も強みになりえる可能性がある。

長澤委員：

若い人々にこれからずっと住んでもらえるように、例えば、「スポーツのまち」など生き生きした、夢のあるイメージが伝わる言葉が入ると良いが。

瀧澤委員：

「南の玄関口」はどうだろうか。

小笠原委員：

「利便性」、「安心安全」、「住みたい」を入れてみてはどうだろうか。

守屋委員：

南浦和駅周辺は開発がなかなか進まないが、武蔵浦和駅は空き地もあるので、商業施設ができるといい。

中村委員：

南浦和駅は若い人が多いイメージだが、高齢者の方にとっては不便なのだろうか。

車田委員：

南浦和駅に関しては、エレベーター設置やバリアフリー化等の改修工事を行っている。その一環として、トレイを洋式化し、数も増やした。しかしながら、構造の問題で、駅中に商業施設が入るような開発にはならない。

宮田委員：

今ある商店街の活性化が先決だと思う。また、「ベッドタウン」という表現に関しては、現実はそのような状況なので、不適切だとは思わない。「ベッドタウン」という現状を踏まえて今後どうしていくのか区民に問いかけてはどうだろうか。

関根委員：

南区は、自然がたくさん残っており、古くから住んでいる人たちも多くいる。新旧住民が交流するということが表現できるといいが、「ベッドタウン」という言葉は少し古くないか。

宮田委員：

「ベッドタウン」を削除してはどうか。

市：

素案は、はじめに「ベッドタウン」という言葉で区の現状を伝え、それを踏まえどのようなまちにしていくのかを表現したもの。いずれは「ベッドタウン」から「ホームタウン」へ移行することを目指している。

宮崎委員：

南区は小中学校も定員いっぱいであり、若い区のイメージである。一方で、特に男性で、定年を迎えた方々の居場所がない気がする。一生を通して住んで良かったと思えるまちづくりが非常に重要なのではないだろうか。

米沢委員：

「思える」と「願える」の違いだが、「思える」は現実になっている、「願える」は現実ではないというニュアンスがあるかと思う。したがって、素案の方が一歩進んでいるように感じる。

●まちづくりのポイント「1.人と地域が結びつく、区民主役のまちづくり」に関して

関根委員：

現行の「自立・自助の地域社会づくり」で良いのではないか。将来像の「あなたが主役」と本項の「区民主役」と表現が重複している。

宮田委員：

若い人が多いので、「活力あふれる区民主役のまちづくり」など勢いがある表現があると良い。

首藤座長：

複数の要素が一文にあり、理解しづらいか。

萩原委員

人が直接ふれあい、交流できる場をつくるべきだ。また、そのためにも安全な道路の整備が必要。

小笠原委員：

区の花がヒマワリになったので、ヒマワリを強調してみてもどうか。例えば、ヒマワリ畑を作り、関連するお祭りを開催する等交流を深められるのではないか。

首藤座長

「人と地域が結びつく、自立・自助の地域社会づくり」がよいのでは。

●まちづくりのポイント「2.子どもから高齢者まで元気に健康で暮らせるまちづくり」に関して

長澤委員：

「子育てしやすいまちづくり」とあるが現状は託児所不足である。退職者の力を活用するなどのアイディアで解決できるのではないか。

関根委員：

区内には放課後児童クラブもないと聞いている。また、現行計画には「高齢者が経験を生かし」という表現があるが、本素案にはない。高齢者層の活用に関する表現を具体的に入れた方が良いのではないか。

車田委員：

J R では無人駅の名誉駅長として市民に駅舎の維持管理業務をお願いしている。

長澤委員：

参加者の生きがいになり、良い活動だと思う。

宮田委員：

区内に住んでいる文化人の知的財産を区民と共有できる取組ができないか。このような取組が進めば、文化都市として区の魅力が増すのではないか。

●まちづくりのポイント「3.安全・安心なまちづくり」に関して

野口委員：

近所の交番が閉鎖になり、どこにあるのか分からない。人口が増加している現状において、交番の存在は安全面でも重要だと思う。

萩原委員：

小学校に警備員が配置されているが、午後の配置はない。したがってPTAの方が代行しているが、警備経験者に参加してもらえるとノウハウを活用でき、非常に安心である。

長澤委員：

防犯面に関しては自助・共助が大切だが、まずは自立が重要である。

村松委員：

交通安全に関しても自己責任が大前提である。特に自転車マナーに関しては個々人の自覚によるものであり、親が交通ルールを知らないと子どもも知らない。

佐藤委員：

青パトで町内を巡回しているが、夜間だけなのか。

市：

県、市それぞれ実施しているが、南区では火、水、木曜日の午後に区内を3地区に分け

て巡回している。また、各自治会における防犯パトロール隊は、夕方や夜間などに行っている。

●まちづくりのポイント「4. 自然が残された情緒豊かなまちづくり」に関して

宮田委員：

自然環境保護に関しては、場所を指定する特区のようなものを設定してはどうだろうか。

市：

市全体で議論すべきことで、区だけでは判断できない。

* 予定時間を超過したため、

「自然が残された情緒豊かなまちづくり」及び「快適な都市環境が整ったまちづくり」に関しては3月22日（金）までに個別で意見を受け付けることとした。

⇒ 特に意見なし

5 閉会

以上